

魅力ある高校生にインタビュー

明日へ ジャンプ

No.199

兄弟で研さんを重ねた日々 二人で立つ全国の舞台

伊勢崎工業高等学校 3年 ^{くらもち}倉持 ^{こうた}虹汰 さん(右)・^{くらもち}倉持 ^{そうた}奏汰 さん(左)



伊勢崎工業高校に通う双子の倉持虹汰さんと奏汰さん。二人は小学4年生から本格的に囲碁を始め、現在は囲碁・将棋部で日々碁盤に向き合っています。そんな二人に普段の練習の様子を聞きました。

虹汰「放課後に二人で囲碁を打っています。部活の終了時刻までに対局が終わらない場合は、盤面を二人で覚え、帰宅後に自宅で続きを行います」

奏汰「常に練習相手がいるので恵まれた環境だと思います。お互いの弱点も分かっているので、そこも考慮して話し合いながら碁を打っています」

常に楽しむことを大切にしながら碁を打っていると語る二人。積み重ねた練習の成果は、今年の4月に行われた全国高等学校囲碁選手権大会群馬県大会で発揮されました。

虹汰「大会前は二人で実際の対局を想定しながら練習をしました。大会では苦戦を強いられる展開もありましたが、諦めずに打ち続けた結果、日頃の練習の成果を発揮でき、準優勝することができました」

奏汰「1回戦で優勢だったにもかかわらず時間切れで負けてしまいました。しかし、2



プロフィール

^{くらもち}・^{こうた}(右) 卒業後は大学で機械の知識を深め、将来は人の役に立つものづくりに携わりたいと語る。

^{くらもち}・^{そうた}(左) 父の影響で電気工事の仕事に興味を持つ。卒業後は大学に進学し、施工管理技士の資格などを取得したいと語る。

回戦以降は先生にかけてもらった『平常心』という言葉を意識することで挽回でき、5位に入賞することができました」

この結果を受け、二人は7月に香川県で開催される全国高等学校総合文化祭に、3人一組で行う団体戦のチームメイトとして出場することが決定しました。

虹汰「団体戦のもう一人のメンバーは幼なじみなので、その3人で出場できてうれしいです」

奏汰「全国大会の団体戦にみんなで一緒に出たいね」と話していたのでうれしいです」

兄弟・幼なじみとの全国大会出場を喜ぶ二人の表情は笑顔であふれていました。